



# ヘルスケア歯科診療について藤木が伝えたいこと 2024

## ウステリアの誕生と私が使い続けている理由について



藤木省三（神戸市開業）

### はじめに

「どうしてウステリアにデータを入れなければならないのですか？」という質問を今までに何度も受けました。私にとってはとても不思議な質問です。なぜなら、「データを入れなければならない」と思ったことは一度もなく、「知りたいことがあるからデータを入れておこう」とずっと思ってきたからです。今年は、そのような私の経験をお話してみたいと思います。

### その 1 ウステリア誕生前から誕生まで

第1回はウステリアの誕生前のお話をします。今から約35年ほど前の話なので、読んでいる人のなかにはまだ生まれていなかった人もおられるかもしれませんね。

#### 〈ウステリア誕生前〉

ウステリアが生まれる約10年前に、熊谷崇先生から「Macintoshを使って歯科のデータ管理をするためのソフトを作ってほしい」と依頼がありました。そこで、趣味でNECのパソコンのデータベースソフトで遊んでいたのを活かして、MacintoshとデータベースソフトのFileMaker®IIを使って歯周治療に関するデータを入力するソフトを作りました（図1, 2）。このときに熊谷先生からデータベースソフト作成を依頼されたことでその後の歯科医師人生が豊かになり、今から思うと本当に幸運なことでした。

その後、1992年頃からフォーラム DEWA でカリオロジーの勉強が始まり、サリバテストの結果も入力ができるように進化していきます（図3）。図4は初診時のデータを入力する画面ですが、すでに現在のウステリアと同じような雰囲気になっています。1990年代前半には、私たちはすでに歯周炎における喫煙の影響について理解していたので、現在でも使われている喫煙本数を記録するフィールドも作られています。また、当時からデータを入力できるだけでなく、年齢や歯周病の重症度に分けて検索や集計も今と同じようにできました（図5）。ソフトの基本的な考え方は当時から現在まで変わりありません。

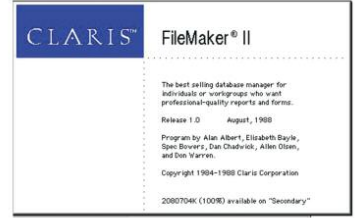


図1 Macintosh と FileMaker® II

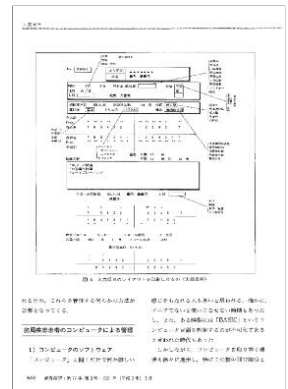
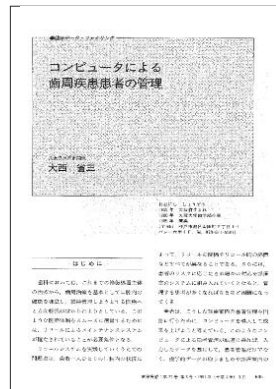


図2 1991年 歯界展望 3月号



図3 1997年 歯界展望 2月号



図8 ソフトを立ちあげると最初にメニュー画面が見られる。ここからさまざまな仕事を選択する



図9 個々の患者のデータの入力画面



図10 入力できるだけ簡易に行うため、ほとんどの項目はポップアップリストから値を選択できるようにしている

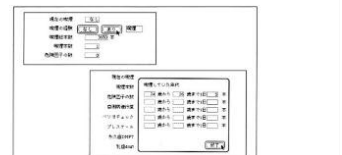


図11 喫煙項目は、小児や非喫煙者は「なし」をクリックする。喫煙者は「あり」をクリックすれば喫煙経験入力画面に切り替わる

図4 喫煙本数計算画面は、今のウステリアにも引き継がれている

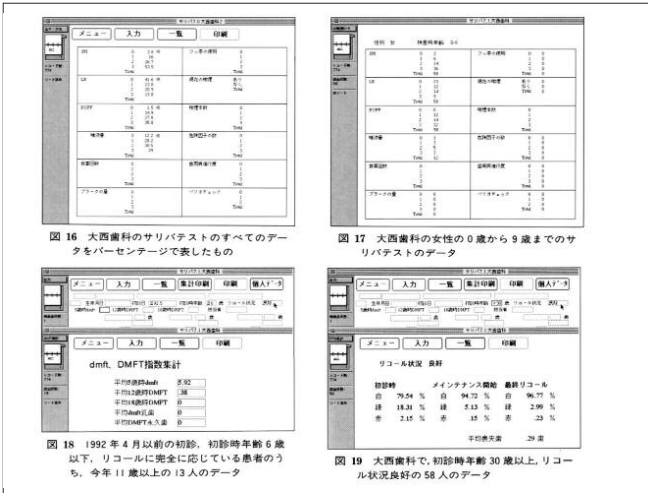


図 5 検索や集計もできるように作られている

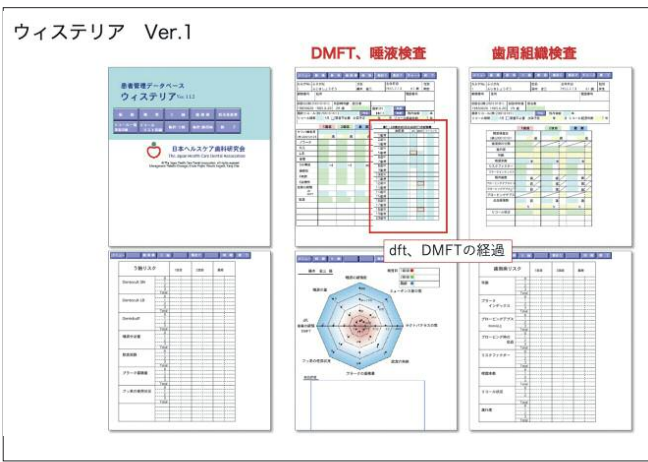


図 6 ウィステリア ver.1

### 〈ウィステリア誕生〉

1998年に日本ヘルスケア歯科研究会が設立され、それまで作っていたデータベースソフトに「ウィステリア」という名前が付けられました。ウィステリアの誕生です(図6)。

Ver.1では、残存歯、DMFT、歯周組織検査の値、サリバテストの結果などが入力、集計できるようになっています。このソフトを使うことで、サリバテストの時間軸での変化、歯周治療や定期的な健診による歯周治療やう蝕予防などの結果を知ることができました。

次回から私がウィステリアを使っている理由を具体的な例を示しながらお伝えしていきます。

